

### 3-3. 公演会等委託事業

#### 3-3-1. 事務事業評価シート

#### 事務事業評価シート

H 27 年度

事務事業名	公演会等委託事業			総合計画 個別施策 コード/名	2441	文化芸術活動の推進
新規・継続	継続	事業開始年度	不明	担当課	生涯学習課	
根拠法令等	なし					

#### 1. 事業の概要

##### 【事業内容】

・コンサートや演劇、講演会等の委託事業を行う。  
・関係機関の協力を求めて、公演会等の周知に努めることにより、町民がそれらの事業等に積極的に参加する意欲を喚起する。

##### 【成果目的】

町民へ情操教育及び文化芸術活動の振興を図るため、質の高い文化に触れる機会の提供をする。さらに、将来にわたって、新たな文化活動の創造、及び心の豊かさやゆとりある生活がおくれるよう支援する。

#### 2. 活動指標と成果指標

指標名	単位	説明	H25	H26	H27	H28	
			目標 実績	目標 実績	目標	目標	
活動指標	開催回数	回	開催回数	2 2	3 4	4	4
	実事業費	円	事業費一歳入	3,500,000 3,280,750	3,500,000 3,028,088	3,500,000	3,500,000
成果指標	入場者数	人	入場者数	800 775	900 1,301	1,300	1,300
	入場者1人当たり経費	円	実事業費÷入場者数	7,340 4,233	5,000 2,337	3,000	3,000

#### 3. 事業費の内訳とコスト分析

##### (1) 歳出内訳

H25年度(決算)	H26年度(決算)	H27年度(予算)
3,291,750	3,728,288	3,000,000

##### (2) 歳入

H25年度(決算)	H26年度(決算)	H27年度(予算)
11,000	700,200	300,000

歳入内容: 教育費雑入・文化事業入場料

	[種別]	[金額]	[内容]
決算 内訳	公演会	200,000	常総学院吹奏楽部演奏会(5/24)
	公演会	300,000	天心映画上映会(8/23)
	公演会	1,048,000	お好み演芸寄席(1/24)
	公演会	2,180,288	加藤登紀子コンサート(2/21)

##### (3) 人件費(時間)

	H25年度		H26年度	
	時間数	人件費概算	時間数	人件費概算
正職員(時間内)	380	665,380	404	707,404
正職員(時間外)	0	0	26	56,908
臨時職員	0	0	0	0
その他	0	0	0	0
合計	380	665,380	430	764,312

##### (4) 町民1人当たりコスト (事業費+人件費一歳入)

	H25年度(決算)	H26年度(決算)
事業費	3,291,750	3,728,288
人件費	665,380	764,312
小計	3,957,130	4,492,600
歳入	11,000	700,200
計	3,946,130	3,792,400
町民1人当たり	約 82円	約 79円

#### 4. 事業の方向性と取組方針

##### ▼担当者記入

##### 2~3の考察と課題、改善計画

今後も、情操教育、及び文化教育の振興を図るため、コンサート・演劇・講演会等の事業の充実を図っていく。  
取組方針としては、より文化芸術性の高い公演会、及び町民ニーズに貢献できるような事業を具現化し、町民の満足度を向上させていきたい。

##### ▼課長記入

##### 【方向性・業務改善】

##### 理由

将来的な方向性 同規模の予算で、開催回数を年2回から年4回に増加でき、費用対効果が向上しているため、現状の規模で適切である。

##### 現状の規模で継続

業務改善 毎年内容を変えながら開催しており、町民の参加も非常に多いため。

##### 改善の必要なし

##### 【取組方針】 ※いつまでに、どんな状態にするか。そのために今年度は何をやるか。

町民から、公演開催時にアンケートを集め、町民ニーズを把握しながら公演内容の検討を図って、コンサート・講演会・演劇などの開催をしていく。

### 3-3-2. 委員会における評価と指摘事項

※分数は全委員のうち妥当であると評価した委員の数を示す

※「○」は「妥当である」、「×」は「妥当でない」を示す

委員会としての評価		補足
目的に対する手段	5/6 → ○	
活動指標	5/6 → ○	
成果指標	4/6 → ○	・住民の文化向上、満足度などを把握すべき。
方向性	4/6 → ○	・税金を使って行う事業ではないのでは。
業務改善	1/6 → ×	・プロの招へいと、町民の芸術家育成(ワークショップ的公演会)。 ・イベント以外の方法があっても良いのでは。 ・民間にふさわしいものは民間の興行に任せるべき。 ・自治体として実施するのにふさわしい内容にすべき。 ・内容によっては、会費を変えることを検討しても良い。参加費に改善の余地がある ・これまでに行われたコンサート・演劇等が必ずしも文化芸術性が高いのかは疑問。
取組方針 (改善方針)	4/6 → ○	・町民ニーズの把握を5年に1度など、上位計画策定時のアンケート実施時に行って欲しい。 ・町民ニーズの把握は、単なる要望ではなく文化芸術性という視点を入れて欲しい。 ・高い芸術性のある内容の選定を心がけるべき。

#### ヒアリングにおける主な指摘事項

<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般大衆向けの歌謡曲の歌手を呼ぶ事業を自治体が開催すべきか。自治体がやるならば、自治体ならではの独自性、例えば素人だが芸術性が高いというものを中心に行い、コンサートなどは民間の興行に行ってもらえば良い。</li> <li>・民間の興行よりも入場料を安くして身近に聴いてもらうとのことだが、売り切れてしまいチケットを取れない人もいる。</li> <li>・町民のニーズは芸術よりも娯楽。だが、税金を使う以上、どこまで娯楽が良いのか考える必要がある。講談師の講談などは、日本の文化芸術に触れる、町民の方に聴く機会を設けるという意味では良かったと思う。</li> <li>・ビッグな人を呼んで何百万使うというのが町税の使い方として適切なのか。しかもごく一部の300人しか聴けない。</li> <li>・芸術促進ということなら、地元で活動している人に場を提供し、知名度や実力を上げていただくことも一つ。</li> <li>・町民だけでなく他市町村からも観覧者が来ているかもしれない。阿見町にいる友達にチケットを買ってもらうのも有り得る。</li> <li>・満足度の場合、入場した人にとっては満足だが、入場できなかった人にとっては不満。</li> <li>・音楽で元気になるまちづくり事業では中央公民館で音楽会をやっているが、きちんとした会場で演奏したいというニーズもあると思う。事業を統合した中で事業内容を検討できないか。</li> <li>・プロを呼んでアマチュアを育てるような公演会を行うとか、トップアスリート事業のように、プロの人の公演をし、阿見町の人と一緒に演奏したり、直接教わることをしたりするのも一つでは。</li> <li>・必ずしもコンサートでなくても、地元にいる子どもたちを育てるというような、サロン活動のような場を作ってはどうか。</li> <li>・一流のプロを呼んで芸術性を見てもらう、体験してもらうというのは、自分では呼べないけれど、町の支援であれば呼べるというのを検討すると良い。</li> <li>・昔、映画に観に行けないような人が多かった時代ならば町が支援して機会を与えるという役割があったと思うが、今は違う。芸術は心の問題であり「これは芸術性が高いから見た方が良い」という姿勢は不適切。</li> <li>・一部の参加者のために税金を使っている。</li> </ul>	<p><b>その他の意見(ヒアリングシートにおける自由記載)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町が町民に対して文化芸術活動の意識高揚を図る必要があるのか。芸術は内心の問題。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・イベントに参加した人だけでなく、参加していない人のニーズが重要。公民館を利用していない人も含めて町民ニーズを何かの時点で捉えた方が良い。</li> </ul>	

3-3-3. 担当課による対応方針

平成27年度 外部評価結果に対する対応方針

事業名	公演会等委託事業	担当課	教育委員会生涯学習課
-----	----------	-----	------------

1. 目的に対する手段

目的に対する手段	外部評価結果	<b>妥当である</b>	事業内容の見直し:	<b>無し</b>
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、現行の事業内容を継続する。		

2. 指標

活動指標	外部評価結果	<b>妥当である</b>	活動指標の見直し:	<b>数値変更</b>	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	開催回数	回	開催回数	H25	H26	H27	H28
		実事業費	円	事業費-歳入	2	3	4	4
	来年度	開催回数	回	開催回数	3,500,000	3,500,000	3,500,000	3,500,000
実事業費		円	事業費-歳入	2	3	4	4	
担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たため、項目は現行どおりとする。							

成果指標	外部評価結果	<b>妥当である</b>	成果指標の見直し:	<b>有り</b>	※有りの場合は翌年度の事務事業評価に反映			
	現行	入場者数	人	入場者数	H25	H26	H27	H28
		入場者1人当たり経費	円	実事業費÷入場者数	800	900	1,300	1,300
	来年度	参加者満足度	%	公演会参加者に対するアンケートで、満足できたとする回答の割合	7,340	5,000	3,000	3,000
入場者1人当たり経費		円	実事業費÷入場者数	7,340	5,000	3,000	2,800	
担当課の考え方	評価は、妥当であるが、「住民の文化向上・満足度などを把握すべき」という指摘を受けたため、参加者の満足度を示す指標を設定する。公演毎にアンケートを収集し、より有意義な公演会事業を開催する。目標値(%)の根拠については、8割以上の満足度を目標として設定し、実績に応じて見直しを図る。							

3. 事業の方向性

方向性	外部評価結果	妥当である	現在の方向性	現状の規模で継続	方向性の見直し (見直し後の方向性)	無し
	担当課の考え方	妥当であるとの評価を得たが、「税金を使って行う事業ではないのでは」との指摘を受けたため、町民に「税金を使って事業を行うことが妥当である」と認識して頂けるような実効性のある事業を企画実施していく。 平成28年度事業計画 ・能楽鑑賞会(古典芸能鑑賞教室) ・人権教育講演会 ・家庭教育講演会 ・健康生活講演会 ・教育の日講演会				
業務改善	外部評価結果	妥当でない	現在の業務改善	改善の必要なし	業務改善の見直し (見直し後の業務改善)	有り 一部改善
	担当課の考え方	事業の今後の方向性について、指摘を受けた事項について改善をする。自治体として実施するにふさわしい公演内容にするため、より文化的・教育的な事業を企画実施できるよう改善し、参加費(受益者負担)についても、それぞれの公演会ごとに応じた参加費の徴収ができるよう改善を図る。来年度は、能楽鑑賞会(古典芸能鑑賞教室)を開催し、「お囃子」や「謡い」など町民に参加頂けるワークショップ的イベントの実施をする。				

4. 取組方針

取組方針 (改善方針)	外部評価結果	妥当である	取組方針の見直し	有り
	現行の取組方針	町民から、公演開催時にアンケートを集め、町民ニーズを把握しながら公演内容の検討を図って、コンサート・講演会・演劇などの開催をしていく。		
			【評価結果を踏まえた今後の取組方針】	公演会の参加者を受益者と捉え、参加者に対するアンケートを実施し、効果を測定する。また、町民ニーズを把握するとともに、芸術性および教育性の高い内容の事業選定及び受益者負担の改善を図る。町民ニーズの把握については、上位計画策定(生涯学習推進計画)でも、アンケートを実施して欲しい旨提案があったので取り組んでいく。 阿見町では、町民憲章の一つとして「知性と教養を高め、文化の香り高い町をつくりましょう」を掲げている。これからも、町民に対し、文化芸術の意識が高まるよう、効果的な事業を実施し、心のやすらぎと活力のある住みよい町づくりに寄与できるよう取り組んでいく。